

令和元年度 部局長マネジメント方針

やまぐち たかよし
建設局長 山口 隆義



私の決意

昨年度は、6月の大阪北部地震に始まり、7月の連続長雨、8月からの大型台風の連続襲来など、次々と自然の驚異に見まわれ、本市においても、少なからず被害が発生しました。特に、約半世紀ぶりの大阪直撃となりました台風21号は、まれにみる暴風が吹き荒れ、市内各所において、その傷跡を残しており、改めて自然災害に備える教訓となり、近年のゲリラ豪雨対策と共に、どのような対応をするべきかを再認識させられました。

「安全・安心なまちづくり」に向けて、災害に対する備えを、市を挙げて取り組んでいく必要があり、建物の耐震化だけでなく、市民生活を支えるライフライン施設の耐震化にも、引き続き取り組んでいきます。

さて本年3月には、JRおおさか東線が全線開業し、本市から新大阪駅に乗り換えなくアクセスできるようになり、各方面への利便性が益々向上しました。本市には、26の鉄道駅がありますが、市内南北交通の要である大阪モノレールの南伸事業にも、大阪府と共に積極的に取り組み、更なる公共交通の利便性の向上を図り、「住みたくなるまちづくり」に寄与していきます。

そしてなにより本年は、ラグビーワールドカップ2019が日本にて開催され、本市も花園ラグビー場にて、4試合が組まれています。建設局では、この記念すべき国際大会に向け、メインスタジアム大改修、開催場所としての花園中央公園内の関連施設整備及びアクセスルート整備を担ってきており、いよいよ世界中の方々をお迎えする準備が整いつつあります。大会の大成功に向け、最後の仕上げを怠りなく実施していきます。さらにこの記念すべき国際大会を一つの経験として、これからの景観形成についても、市民の皆様と共に考え、「より良い景観のまちづくり」を進めていきます。